



冬のくりやま

自然を初体験

阪南大学 × 東海大学
(大阪府) (神奈川県)



2月13日～14日、阪南大学の学生6人が、関係人口のあり方について考えるフィールドワークを町内で行いました。学生は新たな観光コンテンツとして、町の「ものづくり」と「スポーツ」を掛けあわせた「Yukiita (※)」をモニター体験。活動を通して普及に向けたアイデア出しや研究報告を行いました。



2月11日～15日、東海大学の学生4人が環境保全に関する実習を町内で行いました。本研修は平成21年より毎年行われており、今年で14回目。学生は町民との交流や自然体験などを通じ、最終日には町の魅力を伝えるための食と自然を体験するツアーの企画を提言しました。



これからも栗山町と繋がっていきたい

初めての栗山町でしたが、現地での活動は大変充実した日々でした。特に印象に残ったのは Yukiita の活動。ファブラボ栗山の機械を使っ
ての雪板制作は難しかったですが、自分の作品で雪の上を滑る体験は
とても楽しく、また、今後の利用や普及に向けた可能性を大いに感じ
ました。サポートいただいた本校卒業生の北山沙也加さん（現・町地
域おこし協力隊）を始め、関わっていただいた方々には感謝しかあり
ません。今回の研修で終わりではなく、栗山町との繋がりを今後も継
続していけるような活動がしたいです。

※ Yukiita・・・専用の木製ボード(雪板)を使って滑るウィンタースポーツ

他の地域にはない、人の温かさを感じた

北海道らしい体験として、イグルーづくり、雪合戦、ハサンベツ里
山でのスノーハイク、アイヌ文化の学習など、貴重な時間を過ごすこ
とができました。体験を踏まえた報告会では、栗山町だからこそでき
るツアーの企画を発表し、何とかまとめられたかなと思います。栗山
町の好きなところは、何といっても町民の皆さんの温かさ。一緒に交
流した方やサポートいただいた職員さんにも大変良くしていただき、
一緒に雪合戦やテントサウナを体験できたのも思い出です。雪に触れ
る経験、そして他の地域にはない人の温かさを感じた研修でした。



阪南大学 流通学部 流通学科
2年 田中 智也さん
(福井県出身)



東海大学 教育学部 人間環境学科
3年 中村 優伽さん
(東京都出身)